

おわりに

本実践報告書の作成にあたり、当初は当センターでこれまで開発してきた様々な教材等の支援ツールを、企業の障害者の雇用管理場面においても活用できるよう、企業担当者向けに改良することに主眼を置きました。

改良を検討するにあたって実施した調査の際に、企業担当者から「障害のある社員とどのように関係を築いていけばいいのかわからない」といった意見が少なからずあり、障害のある社員に対して慎重に接していることが窺えました。

また、当機構の令和6年3月発行調査研究報告書No.176「障害者の雇用の実態等に関する調査研究」によると、障害のある社員の4割以上が職場に対して合理的な配慮を求めることに躊躇しているとの状況が浮かび上がり、障害のある社員も少なからず、企業の担当者に対して壁を感じていることが想像されます。

「心のバリアフリー」が提唱されて久しく、風通しの良い職場環境づくりや、最近では、障害者の雇用支援の現場でも、心理的安全性の確保の重要性等といったことが指摘されることが多くなっています。しかし、いざ、障害のある社員と良好な関係を築こうとした際に、職場の人間関係が希薄になっている中で、どのようなことから始めればいいのか、「言うは易し行うは難し」といった状況に置かれている企業担当者の悩みはとてよく理解できません。

このような背景から、本実践報告書は、企業の担当者と障害のある社員が、日ごろの雑談もできるような関係づくりのための「初めの一步」を踏み出すための視聴覚教材等を開発し、取りまとめました。

本視聴覚教材が媒介となり、障害のある社員が働く職場が互いに尊重し合える空間となることを願っています。